

サッポロホールディングス株式会社

Sustainability Book 2025



TAKE A STEP FORWARD

経営理念

潤いを創造し 豊かさに貢献する

サッポログループが提供する価値

全ての事業が提供する時間と空間で、
人々と地域社会のWell-beingに貢献

サステナビリティ方針

大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。

サッポログループは、

人々の幸せな笑顔のために、地球環境や社会の課題に向き合い、取り組みます。

自然の恵みの源泉である大地こそ最も重要なパートナーと捉え、

商品・サービスの開発から、お客様が手にしたその後までの全ライフサイクルにおいて、

思いをひとつにするステークホルダーとの協働・共栄に励み、

原点からの発想を大切にし、知恵を尽くして持続可能な笑顔の創出に挑みます。

こだわりの「ものづくり」と、地域に根ざした「まちづくり」、

そして「世界の笑顔の開拓者たれ」の誓いを胸に、

地球上のあらゆる地域における「笑顔づくり」を目指します。

Contents

02 – 社長メッセージ

03 – サステナビリティ重点課題の更新

04 – Global Sustainability Meeting

05 – 人事部長×経営企画部長対談
-サステナビリティ経営を推進する
人財育成について-

06 – Sustainability Innovation Program

07 – バリューチェーンでみるサッポログループの
サステナビリティの取り組み

コーポレートデータ

編集方針

本誌では、「持続可能な社会の実現」と「持続的成長」の両立を目指すサッポログループの姿を、お客様や従業員をはじめとするすべてのステークホルダーの方々にご理解いただくため、九つの「サステナビリティ重点課題」を軸に取り組みを紹介します。なお、本誌とは別に、より詳細なサステナビリティ情報を開示する「サステナビリティサイト」、投資家向けにサッポログループの価値創造ストーリーを詳細に報告する「統合報告書」を、Webサイトで公開しています。

サステナビリティサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/>

統合報告書

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/library/factbook/>



時代や社会の変化に応じたサステナビリティ経営を推進し 「持続可能な社会の実現」と「持続的な成長」を両立します。

サッポログループは、中期経営計画(2023~2026)のさらに先を見据えた「グループ価値向上のための中長期経営方針」において、酒類事業を中核とした企業グループへと事業構造を転換する方針を表明し、将来目指す姿を「世界をフィールドに豊かなビール体験、顧客体験を創造する企業」と定めました。この目指す姿の実現に向けて、2025年2月、グループの持続的な価値向上に向けた中長期成長戦略を策定しました。

当社グループが、これからも社会に必要な企業グループであり続けるためには、この中長期成長戦略を着実に実行すると同時に、社会や時代の変化を的確に捉えたサステナビリティ経営を推進し、「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」を両立させなければなりません。

当社グループは、「環境との調和」「社会との共栄」「人財の活躍」を柱とする9項目のサステナビリティ重点課題(マテリアリティ)を設定し取り組みを進めてきました。2025年1月、昨今の社会情勢、事業環境の変化や中長期成長戦略の策定に合わせてマテリアリティを更新し、これまでの「脱炭素社会の実現」「地域との共栄」「多様な人財の活躍」に

加え、新たに「自然共生社会の実現」と「責任ある飲酒の推進」を最注力課題に位置づけ、取り組みを加速させています。

「自然共生社会の実現」では、ビールの主原料である大麦／麦芽のサプライヤーと連携して窒素肥料の投入量把握と、施肥の最適化に向けたコミュニケーションに取り組んでいるほか、気候変動に対応した品種開発を推進するなど、持続可能な原料の安定調達を目指しています。「責任ある飲酒の推進」では、適正飲酒の啓発活動をいっそう強化するとともに、今後ノンアルコール、微アルコール飲料の商品ラインナップを充実させていきます。

そして、こうした取り組みを加速させるためには、「多様な人財の活躍」が非常に重要になると考えています。時代の先を見据えたサステナビリティ経営を実践するには、変化を捉えて自ら行動できるプロアクティブな人財が必要です。社員一人ひとりがサステナビリティを“自分事”として捉え能動的に取り組む企業風土を醸成していきます。

私が経営において何より大切にしてきたのが「互敬、共感、互助、共創」という言葉です。2025年3月の社長就任後もその大切さを全社員に伝え続けています。多様な個性や

価値観をもった社員が、互いをリスペクトし、共通の目的に向かって力を合わせてこそ、新しい価値を創出できると確信しています。サッポログループは、これからも全社員が力を結集して持続可能な社会の実現に寄与することで、自らも持続的な成長を果たしてまいります。ステークホルダーの皆様には、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

サッポロホールディングス(株)
代表取締役社長

時松 浩



Hiroshi Tokimatsu

グループ中長期成長戦略に基づき サステナビリティ重点課題を更新



サッポロホールディングス(株)
専務取締役

松風 里栄子

新たな「グループ中長期成長戦略」は、酒類を中心とした価値創出とグローバルでの成長実現を目指しています。これを踏まえ、サステナビリティ重点課題を見直し、「自然共生社会の実現」と「責任ある飲酒の推進」を最注力課題に加えました。

当社グループは農産物や水といった自然の恵みを利用して、「自然共生社会の実現」への取り組みは必要不可欠です。事業を持続可能にするためには、原材料の安定調達はもちろん、その生産過程における環境影響を極力低減しなければなりません。TNFDフレームワークに基づいて分析した結果、当事業のなかで最も自然への依存・影響が大きいのは、大麦とホップの生産でした。とくに生産過程における環境への影響は当社との関係

が深く、具体的な戦略に反映して取り組みを進めています。

人々の健康志向やアルコールの社会影響への関心が世界的に高まるなか、グローバルでの成長を目指す当社にとって適正な飲酒の啓発は、重要度が増している課題です。「責任ある飲酒の推進」を最注力課題とし、お酒を楽しむ皆様に健康的な生活を送っていただけるよう、新しいお酒の価値をつくっていくことは、酒類メーカーの役割だと考えています。

また同時に、「持続可能なサプライチェーン構築」を、環境・社会・人財のすべてに関わる重要課題として捉え直しました。サプライチェーンにおける人権尊重や環境影響の低減、安定調達に向けて、グループ横断的な対応を強化しています。

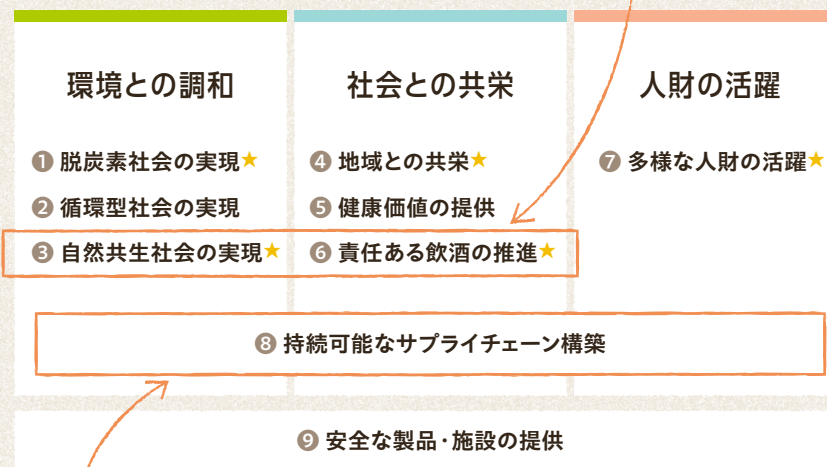
私たちサッポログループは、さまざまな環境変化を、事業成長の機会と捉え、柔軟に適応し、これからもサッポロらしいサステナビリティを実現していきます。

変更ポイント

01

「自然共生社会の実現」と「責任ある飲酒の推進」を最注力課題に変更

★ … 最注力課題



変更ポイント

02

「持続的なサプライチェーン構築」は環境・社会・人財のすべてに関わる項目に位置づけを変更

グループ全体でサステナビリティ重点課題に向き合う

Global Sustainability Meeting

「グローバルサステナビリティミーティング(以下、GSM)」は、海外事業会社のメンバーとともに、サッポログループのサステナビリティ課題を考える会議です。2024年は4つの海外事業会社と行いました。今後、各国メンバー横断でサステナビリティ重点課題に取り組むにあたり、海外のサステナビリティ担当者から意気込みを伺いました。



SAPPORO VIETNAM LTD.
Engineering Manager

Le Van Lam

GSMへ参加し気候変動への耐性があるDual-S大麦など、サッポログループの革新的な取り組みに触れ、感銘を受けました。サッポロベトナムは、工場で使用する水とエネルギーの削減や容器包装の軽量化や3R活動を継続的に推進しています。将来的には製品のカーボンフットプリントの実施なども見据え、さまざまな環境対策を推進・検討していく予定です。サッポログループの多彩な活動に刺激を受けながら、私たちもイノベティブな活動を継続し、より多くの価値を世界に向けて発信・展開していきます。



SLEEMAN BREWERIES LTD.
National Environmental Health & Safety Manager

Linden Gossen

私は、各国の事業会社が「サステナビリティへの“旅路”」を歩む仲間であることをGSMで知り、お互いに学び合えることを嬉しく思っています。スリーマンは、サッポログループの環境方針を基に環境フレームワークを構築し、気候変動の影響低減、リサイクルの推進、地域・従業員との連携による自然保全を取り組みの柱としています。これからも経営者から従業員、地域社会に至るまで幅広い人々とのかわりを推進しながら、持続可能な未来を目指していきます。



POKKA PTE.LTD.
Snr Sustainability Supply Chain Manager

Steve Quay

GSMでは、各社の事例や課題を学び合うことができ、今後の取り組みの参考になりました。対面で話す機会もあり、グローバルなチームワークを育むことに役立ったと思います。ポッカは2025年、初めてのサステナビリティ報告書発行を目指し、データ収集を進めています。数値の見える化で、注力する活動が明確になることを期待しています。また、取り組みの進み具合や成果も確認し、活動の向上を目指します。



Stone Brewing Co.,LLC
Vice President of Brewing Operations

Joel Pipman

GSMに出席し、私たちサッポログループが一丸となって、持続可能な未来に向けて行動しているのだと強く感じました。サッポロストーンは、製造ラインの効率化によるエネルギー使用量の削減や、水使用量の最少記録更新、排水管理の改善、CO₂排出量の低減などに、現場で日々取り組んでいます。SOP(標準作業手順書)や教育体制の強化、最新設備の導入などを通じて、継続的な環境負荷の低減を図り、サステナビリティ重点課題の目標達成に貢献していきます。

人事部長×経営企画部長対談

サステナビリティ経営を推進する人財育成とは

サステナビリティ経営を推進していくためには「人財」が重要です。

サッポログループは、「多様な人財の活躍」をサステナビリティ重点課題の最注力課題の一つとして位置づけ、取り組みを進めています。サステナビリティ経営を推進するための人財育成について、人事部長の吉原とサステナビリティの推進を担う経営企画部長の中村に今後の展望を聞きました。

サッポロホールディングス(株)
経営企画部 部長

中村 洋輔

サッポロホールディングス(株)
人事部 部長

吉原 正通

サステナビリティの
理解と推進は企業の存続に不可欠

中村 サッポログループは、2026年度に創業150周年を迎えます。当社は、日本人によるビール国産化を図る企業としてスタートし、地域とともに原料にこだわって品質を追求してきました。これまでの歩みを振り返ると、私たちが存続できたのは、事業を通じて社会に貢献し続けてきたからにほかなりません。サステナビリティは、単なる経営戦略ではなく、私たちのDNAに深く根付いているのです。そして、私たちがこれからも社会に貢献できる企業としてあり続けるために、経営を支える基盤である「人」は重要です。サステナビリティを正しく理解し、推進できる人財の育成が求められていると考えます。

吉原 そのとおりだと思います。前例のないフィールドを切り拓く「変化を起こす力」もまた、北海道開拓使にルーツをもつ私たちが受け継いできた精神です。これからの予測できない社会において、ますます求められる力でしょう。変化を起こす力を育むには、「この社会で自分に何ができるか」を一人ひとりが主体的に考えられる環境が必要です。

公募制プログラムが育てる自立型人財

中村 「Sapporo Sustainability Innovation Program(以下、SIP)」(詳細はP.06)は、それができる場になっていますね。参加者はサステナビリティを起点に新しい事業を考えます。単なる研修ではなく、生み出されたアイデアを実際のビジネスとして育てていくことを目指しています。

吉原 SIPは全員参加や指名制ではなく、あくまで公募制です。また、2025年からのプログラムでは当社独自の「社内副業制度」を取り入れています。人事部が行うほかの研修でも公募制を採り入れています。熱意ある人が自ら手をあげる仕組みは、自立型の人財育成につながると考えています。

中村 SIPの参加者は営業、調達、生産などバックグラウンドはさまざまですが、社会課題の解決や環境保全、イノベーション創出への熱意は共通だと感じます。こうした情熱が、私たちの可能性を広げる源泉となるのではないのでしょうか。

経営戦略に基づくこれからの人財戦略

吉原 加えて、サッポログループの全員がサステナビリティへの理解と自発性を高めていくことも大切で、向上の余地がまだあると考えています。また、変化に強く、変化をあたり前と捉えて行動できる人財を増やしていくため、DE&Iの推進やキャリア採用、外国人採用の強化、女性従業員比率向上などにも、経営企画部と連携しながら引き続き取り組んでいきます。サステナビリティ経営を通じて、次世代に胸を張って引き継げる社会を実現したいですね。

中村 一人ひとりがサステナブルな事業活動の意義を理解し、実践することは、サッポログループの「らしさ」につながり、私たちの企業文化を形づくる原動力となっていきます。社会の変化に対応しながら、私たちらしいサステナビリティを実践し、創業から培ってきたDNAを将来の世代に受け継いでいきたいと思っています。

社会課題解決につながる、新事業について考える

SAPPORO Sustainability Innovation Program

私は、かねてから環境問題に強い関心がありました。SIPを通じて、地球規模の環境問題の現在地を深く理解することができたと思います。同時に、異分野や国際的な視点から学ぶ重要性も実感しました。現在サステナビリティグループに所属し、SIPでの学びがサステナビリティ経営を考えるうえでの心得になっていると感じます。環境問題を悲観せず、イノベーションと協働で解決できる可能性を信じて、業務に取り組んでいきます。



サッポロビール(株)
経営企画部 BX推進・ITマネジメント

唐津 恵子

「Sapporo Sustainability Innovation Program(以下、SIP)」は、サステナビリティをベースにおいたイノベーション創出を目指すプログラムです。2024年は、社内公募で選出した13名が参加しました。参加者は社外プログラムでサステナビリティの今を学び、その後、社内で三つのチームに分かれてイノベーションアイデアを検討しました。参加者に参加のきっかけや今後について聞きました。

参加前、サステナビリティ課題は幅が広く、自分ひとりで理解を深めるのは難しいと感じていました。また、サッポログループの事業とサステナビリティの関係を検討してみたいとも考えていました。SIPでは多角的な学びとメンバーとのディスカッションを通して、サステナビリティへの自分なりの考えを醸成することができました。この経験を日々のモノづくりに活かしていきたいです。



サッポロビール(株)
近畿圏本部 外食営業部

藤田 伸行

お客様のサステナビリティへの取り組みが進むなど、営業現場でもサステナビリティへの意識が高まっています。私は、担当の大阪・関西万博で当社のサステナビリティの取り組みを発信できないかと考えたことが、参加のきっかけでした。SIPを通じ、世界の状況の理解、異業種との交流、イノベーション創造を学び、課題や方向性が確認できました。自ら動き発信をするなど、サッポロのサステナビリティイノベーションを営業の現場から実現していきたいと思っています。



サッポロビール(株)
経営企画部 サステナビリティグループ

今村 麻紀

サッポログループのサステナビリティへの取り組みをより深く理解したく、参加しました。社外プログラムでは、世界で活躍するリーダーから持続可能性の多面的な捉え方を学び、同世代として自身の業務を見つめ直す機会になりました。社会課題解決を軸にした事業アプローチや社会的インパクトを意識した企画立案と進め方を体感できたので、長期的な社会価値創出の観点から戦略立案する視点を今後は積極的に業務に取り入れていきたいです。



サッポロビール(株)
静岡工場 醸造部

佐々木 勇樹

バリューチェーンでみる サッポログループのサステナビリティの取り組み

サッポログループは、商品・サービスの開発からお客様が手にしたその後まで、ライフサイクルのすべての過程で、思いを一つにするパートナーやサプライヤーの皆様とともに、サステナビリティに取り組んでいます。
今回は、私たちの酒類事業の柱である「ビール」と、ポッカサッポロフード&ビバレッジの主要な素材である「レモン」に注目し、それぞれのバリューチェーンのなかでどのように持続可能な取り組みを進めているのかをご紹介します。

 環境との調和  社会との共栄  持続可能なサプライチェーン構築  安全な製品・施設の提供

工程

研究開発

.....



Beer

 気候変動に適應した育種 [→ WEB](#)

Lemon



 レモンの機能研究 [→ WEB](#)

原料調達

.....

 フィールドマネジメント

[→ P.09](#)

 サプライヤー満足度調査、交流会
人権デュー・ディリジェンスの進行
サステナビリティ調達ガイドライン遵守 [→ WEB](#)

  国産レモンの生産振興

[→ P.10](#)

生産

.....



 水資源の保全活動・廃棄物削減の取り組み [→ P.11](#)

 太陽光発電設備の導入 [→ WEB](#)

 食品安全 [→ WEB](#)



物流



作業効率の高い物流センターの設立 → P.12

他社との共同輸送による輸送効率向上／モーダルシフトの推進 → WEB

販売

ノンアルコール商品／
微アルコール商品の開発
アルコール飲料の誤飲防止

→ P.13

お客様からのご意見の反映 → WEB

循環型社会に対応した容器包装の実現
プラスチック資源のリデュース・リサイクル
廃棄物・食品ロス削減 → WEB

健康に焦点を当てた商品の展開 → WEB

お客様

適正飲酒の啓発

→ P.13

地域創生事業 → WEB

地域における健康価値の提供 → P.14

Beer



Lemon

バリューチェーン全体で温室効果ガス削減に取り組む

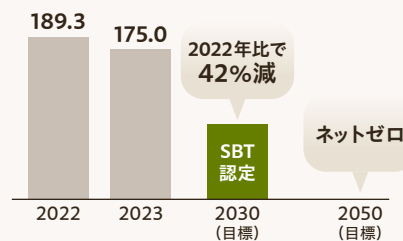
気候変動に対する緩和策として、サッポログループは「環境ビジョン2050」において温室効果ガス排出量のネットゼロを目標に掲げています。ビジョン達成に向け、2030年の中間目標を設けています。スコープ1・2、3およびFRAG※1スコープ1・3それぞれの温室効果ガス排出削減目標を設定し、SBTi※2の認定を取得しました。製造拠点や店舗への積極的な省エネ設備の導入、再生可能エネルギーの活用など自社における取り組みに加え、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出削減に取り組めます。

※1 FLAG (Forest, Land and Agriculture)：農業や林業、そのほか土地利用に関連するセクターのこと。FLAG関連排出は、これらのセクターにおける非エネルギー起源の温室効果ガスを示す。

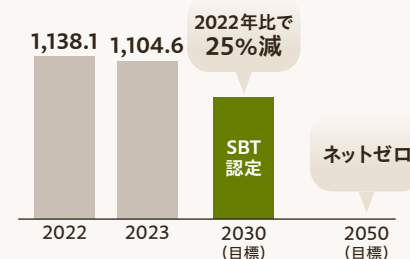
※2 SBTi (Science Based Targets initiative)：2050年までのネットゼロ実現を目指し、科学的根拠に基づく基準やツールを企業や金融機関に提供する国際的なイニシアティブ。

温室効果ガス排出量(千t)

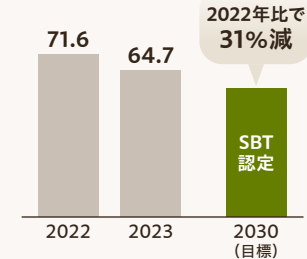
スコープ1・2



スコープ3



FLAGスコープ1・3



環境配慮型麦芽の安定調達を実現した サプライヤーとの長期的な関係構築

サッポロビールは「真においしいビールは良質な麦芽とホップからつくられる」という信念に基づき、麦芽とホップの調達にこだわってきました。近年強化しているのが、気候変動がもたらす環境変化への対応です。2025年に開始した、サステナビリティ課題の解決を目指した調達活動「フィールドマネジメント」を紹介します。

協働契約栽培で育んだ信頼関係で 気候変動にも向き合う

サッポロビールは、2006年から「協働契約栽培」を導入し、生産者とともに畑から原料を育てる独自の原料調達システムを築いてきました。現在も、フィールドマネージャーと呼ばれる社員が生産者を直接訪問し、対話を重ねながら信頼関係を深め、高品質な麦芽・ホップの安定調達を実現しています。

こうした長年の取り組みによって、世界各地に信頼できるパートナーが生まれました。なかでもフランスの大手製麦会社Soufflet Malt社(スフレモルト)とは、気候変動などの環境課題に関する議論を重ねてきました。その関係性が実を結び、同社が開発した環境負荷を低減した麦芽「Clim Trace」(クライムトレイス)を、日本で初めてビール製造に使用することができました。



Soufflet Malt社の大麦の生産地

持続可能な麦芽・ホップの調達で これからも高品質なビールを

気候変動などの影響で、ビールの原料である大麦やホップの安定調達は難しさを増し、持続可能な農業の重要性が高まっています。サッポロビールが新たに開始した「フィールドマネジメント」は、従来の協働契約栽培を基盤としつつ、気候変動への対応や生産者支援などの取り組みを強化することで、持続可能な麦芽・ホップ調達を推進するものです。育種や栽培、加工の知識を有するフィールドマネージャーが、フィールドカルテを用いて地域や生産者ごとの課題を把握し、解決に向けて取り組んでいます。

これからも、サッポロビールはフィールドマネジメントを通して、持続可能な麦芽・ホップ調達を推進し、お客様に高品質なビールをお届けしていきます。



実際に現地に足を運び、話を聞いたり交流したりしながら、関係を築いています。



環境負荷の低い大麦
「クライムトレイス」を原料とした
ビールの販売は国内初です

サッポロビール(株)
購買部 フィールドマネージャー

川原 一益





国産レモンの 生産振興を推進し、 地域との 共栄を目指す

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、
国産レモン生産の活性化に取り組んでいます。
日本におけるレモン栽培の課題に向き合い、
生産環境を整え、広めていくことで、地域課題の
解決と地域の活性化につなげていきます。

国産レモンの安定調達と、自社栽培を通じて地域へ貢献

近年、国産レモンの需要が高まる一方、農業従事者の
高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加、長期的な
収穫サイクルといった課題が顕在化しています。

ポッカサッポロフード&ビバレッジでは、2019年より、
広島県豊田郡大崎上島町で国産レモンの栽培を開始
し、生産振興に取り組んでいます。自社栽培に加え、
耕作放棄地の再生と新規就農者への農地の引き渡し
を通じて、地域農業の持続可能性向上とレモン栽培地
の拡大を支援しています。

2024年には静岡県磐田市および遠州中央農業協同
組合とレモン産地形成による地域活性化等を目的とした連携協定を締結しました。磐田市は、
生産者の経営安定化や農地の荒廃防止に取り組んでおり、ポッカサッポロフード&ビバレッジ
は同市および遠州中央農業協同組合と連携し、レモン栽培による地域活性化を目指します。
当社は国産レモンの生産振興を通じて、生産者と連携し地域課題の解決に取り組むとともに、
レモンの持つ健康価値をより多くの消費者へ届けていきます。



ポッカサッポロフード&ビバレッジの大崎上島町にある
自社園地



(左から) 磐田市・市長 草地 博昭様、サッポロホールディン
グス(株)・代表取締役社長 時松 浩、遠州中央農業協同
組合・代表理事 山田 耕司様 (2024年7月時点)

すべての人に より良い水を届ける



SLEEMAN BREWERIES LTD.
National Environmental Health &
Safety Manager
Linden Gossen

2024年3月22日の「世界水の日」に、私たちは「Sleeman Better Water Fund (水基金)」を創設しました。「すべての人に、より良い水を」というビジョンのもと、水問題に取り組む団体を支援することで、カナダにおける水資源保全や清潔な水へのアクセス向上を推進していきます。設立初年度の2024年、当社は水資源保全に取り組む非営利団体「Living Lakes Canada」へ4万ドルを拠出しました。同団体は、地域社会における水資源の保全と安全な水へのアクセス向上に貢献しています。水はビール醸造に欠かせないものです。水資源の保全を支援することは、私たちの企業理念に合致するものであり、社員やお客様にとっても極めて重要な取り組みです。今後もこの活動を継続していきます。

水基金の流れ



- コロンビア盆地水質監視フレームワーク
- 水データ ハブ
- 海岸総合管理計画(FIMP)プログラム
- ナショナル レイクブリッツ

自然の恵みを 循環させる ものづくりを

サッポログループは、「サステナビリティ重点課題」「環境ビジョン2050」において、「循環型社会の実現」を掲げ、事業に関わるすべての資源の3Rに努めています。農作物や水資源などの自然の恵みを利用するサッポログループにとって、限りある資源を有効に使い環境負荷を低減することは、欠かせない責任です。水基金の設立や、ビール類製造で生じる副産物のアップサイクルなど、あらゆる角度から資源循環の仕組みを構築し、社会に新たな価値を提供していきます。

ビール類の副産物で 新たな価値を生み出す



サッポロビール(株)
技術開発部
横石 智彦

ビール類の製造過程で発生する副産物のモルトフィード※1をアップサイクルし、紙製タンブラー「もるたん」をつくりました。パルプモールドという技術※2で実現したプラスチックを使用しないサステナブルなタンブラーです。名称は「モルト」と「タンブラー」を組み合わせたもので、冷たい飲み物をおいしく飲んでいただこうと、飲み口の薄さに徹底的にこだわりました。1mm以下は難しいと一度は断念しましたが、当社と共同開発企業の技術者が飽くなき探求心を発揮し、薄さ0.6mmが実現しました。2024年、実際にプロサッカーチームの試合会場で試用しました。試用後の「もるたん」は分別回収し、トイレットペーパーへとリサイクルしています。今後も「もるたん」の展開にご期待ください。

※1 仕込み過程で発生する麦芽の穀皮

※2 水に溶かしたパルプを乾燥させて紙を成形する技術

モルトフィード活用の流れ



モルトフィード



もるたん (maltum)



トイレット
ペーパー

研究
開発

原料
調達

生産

物流

販売

お客様

Logistics for the future

持続可能な物流体制構築のため、 三つの新たな物流センターを立ちあげ

サッポログループ物流は、持続可能な物流体制を目指して、拠点再編を進めています。ドライバー様の労働環境の改善と気候変動対策を両立させるには、配送距離の短縮と車輛回転率の向上が求められます。そこで、2024年に千葉、広島、埼玉に新たな物流センターを開設しました。各拠点の取り組みについて紹介します。

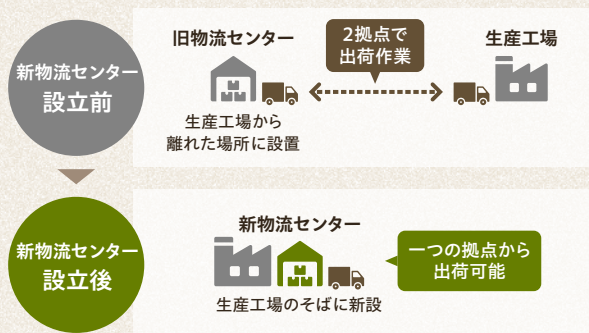


サッポログループ物流(株)
ロジスティクスソリューション部
山根 利紀

千葉の物流センター

サッポロビール千葉工場の隣に物流センター を新設。作業時間とCO₂排出量を削減

サッポログループ物流は、千葉工場の隣接地に「京葉湾岸物流センター」を新設しました。従来は千葉工場でビール製品の出荷を、約4km離れた旧物流センターでワインや洋酒、和酒類の出荷を行っていたため、二つの拠点でトラックへの積み込み作業が必要でした。新物流センターは、千葉工場と直接つながっているため、1つの拠点での出荷が可能になりました。これにより、ドライバー様の運行時間や倉庫作業員の作業時間を含めた出荷付帯業務の年間約2万時間削減に加え、CO₂排出量は年間約116tの削減を見込んでいます。



現場の改善で出荷作業時間を短縮し、 積込車輛の待機時間も削減

新しい京葉湾岸物流センターは、多層階での製品の保管効率を高めるために、各フロアの作業レイアウトを抜本的に見直しました。これによって捻出できたスペースに、ワイン・洋酒類の検品などで使用する補助器具を導入するなど、作業員の職場環境の改善に努めました。また、出荷準備作業にかかる時間の短縮にもつながり、積込車輛の待機時間削減を実現しました。

広島・埼玉の物流センター

長距離配送となっていたエリアに拠点を新設し、 配送距離短縮とドライバーの拘束時間を削減

サッポログループ物流は、配送効率の最適化を目的に、150km圏内を目安とした物流拠点の再編を推進しています。その一環として「サッポロビール広島物流センター」を新設し、従来は九州日田工場から出荷していた広島・島根エリア向けの配送を移管しました。また、埼玉県の商品飲料の配送では、「ポッカサッポロフード&ビバレッジ埼玉加須物流センター」を開設し、北関東物流センター(群馬県伊勢崎市)から一部配送エリアを再配置しました。これらの取り組みにより、配送距離およびドライバー様の拘束時間の削減を実現しています。



今後の取り組み

多角的なアプローチで、 持続可能な物流体制を目指す

サッポログループ物流は、製品の輸配送・保管・荷役作業に関わる従業員・すべてのパートナー企業の皆様、そしてドライバー様の労働環境の改善と気候変動対策の両立に継続的に取り組んでいます。今回の拠点再編だけでなく、現場作業の自動化・機械化や他社との共同輸配送など、多角的なアプローチで安定的で持続可能な物流体制の構築を目指していきます。

研究
開発

原料
調達

生産

物流

販売

お客様

責任ある飲酒の推進で 潤いある生活を提供

お酒は適度にたしなめば、生活に明るさや豊かさをもたらします。

一方で、不適切な飲酒は心身の健康に害を及ぼすことがあり、世界的な社会課題になっています。

サッポログループはグローバルな酒類メーカーとして、責任ある飲酒の推進にまっすぐ向き合います。

グローバルスローガン「Promote Responsible Drinking」のもと、さまざまな場でこの課題に取り組んでいます。

Promote Responsible Drinking

サッポログループは、アルコール関連問題対策のグローバルスローガンとして「Promote Responsible Drinking」を定め、社員一人ひとりがその推進役となって、「適正飲酒の啓発」と「不適切な飲酒の防止」に取り組んでいます。

市場で

ノンアルコール・微アルコールビール
テイスト飲料の普及・拡大

お客様のニーズが多様化していることを踏まえ、サッポロビールとサッポロライオンは、ノンアルコール／微アルコール／低アルコール製品の選択肢を増やすことに取り組んでいます。2024年は、低アルコール製品をサッポロライオンの店舗でテスト導入しました。引き続き製品開発を強化し、ノンアルコール／微アルコール／低アルコール製品の普及・拡大に努めます。



飲食店で

サッポロライオンでの
アルコール専用グラスの提供

サッポロライオンでは、アルコール飲料と清涼飲料水の誤飲防止を目的に、アルコールメニューへの「これはお酒です」の明記に加え、チューハイ類には専用のサワーグラスを使用しています。また、飲酒運転防止のため、自動車などを運転する方にステッカーの装着をお願いして、識別する取り組みも行っています。



学校・企業で

適正飲酒啓発セミナーの開催

サッポロビールは「適正飲酒啓発セミナー」を開催し、健康的にお酒を楽しんでいただくための正しい知識をお伝えしています。2024年も、大学や企業など多くの場所で開催しました。また、小中学生向け小冊子「知っておこう お酒のこと」を作成し、飲酒防止教育用にご希望の小・中学校などへ無料配布をしています。

WEBサイトで

WEBサイトでの啓発活動

サッポロホールディングスWEBサイトでは、「酔いの仕組みとアルコール代謝」「20歳未満・高齢者・女性とお酒・お酒の強要」「健康的な飲み方」など、適正飲酒に関する情報を紹介し、啓発活動を推進しています。



レモンの健康価値で 健やかな毎日をサポート

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、創業以来レモンを通じて「おいしさ」と「健康」に寄り添ってきました。
人々の健康課題と向き合いながら、レモンのおいしさと健康価値で人々のWell-beingに貢献することを目指しています。

北名古屋市で取り組む「レモンで市民を健幸にするプロジェクト」

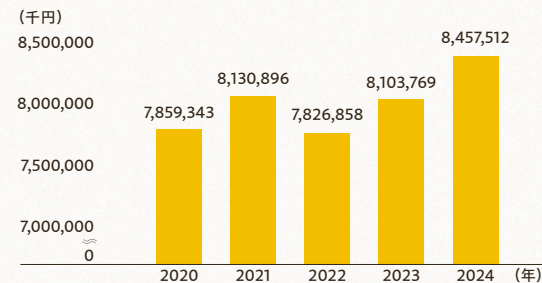
ポッカサッポロフード&ビバレッジは、工場を構える愛知県北名古屋市で、60年以上にわたって地域の皆様とともに歩んできました。2012年には、「連携に関する包括協定」を北名古屋市と締結。レモンを通じた健康や食育に関する取り組みを行っています。その一環として2024年4月に開始したのが、「レモンで市民を健幸にするプロジェクト」です。このプロジェクトは、1日30mlのレモン果汁を日常的に摂取することによる健康実証を行うものです。まずは、北名古屋市長をはじめ市役所職員の皆様にご参画いただきました。実証の結果、レモン果汁の摂取を始めて2か月後から“高めの血圧（収縮期血圧）”の低下が確認され、健康な状態の維持につながることが示唆されています。この結果を踏まえ、今後は市民を対象としたプロジェクトに発展させる計画です。また、血圧に関する項目以外についても健

康増進につながるエビデンスの獲得に努め、レモンの健康価値を広く発信し、皆様のWell-beingと地域への貢献を目指します。

レモンの健康価値に注目高まる。市場拡大へ

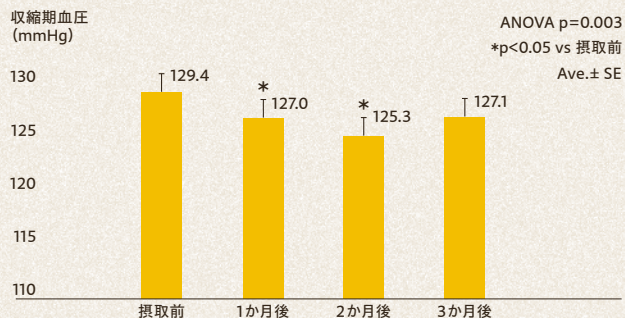
健康や美容への関心の高まりから、レモン商品の市場は今後とも拡大が見込まれています。従来からレモンの健康価値を発信してきたポッカサッポロフード&ビバレッジは、2024年秋、「ポッカレモン100」ブランドとして初めて、瓶3品（120ml、300ml、450ml）を機能性表示食品にリニューアルしました。“高めの血圧（収縮期血圧）を下げる”を表示することで、お客様が手に取る商品においてもレモンの健康価値を伝えています。

レモン商品の市場拡大



出展：インテージ SRI レモン食品市場 2020年1月～2024年12月推計販売規模

参加者99名の収縮期血圧の平均値

研究
開発原料
調達

生産

物流

販売

お客様

Corporate Data

(2024年12月31日現在)

会社情報

商号	サッポロホールディングス株式会社
事業内容	持株会社
設立	1949年9月1日
本社所在地	〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号
資本金	53,887百万円
事業年度	1月1日から12月31日まで
従業員数	連結:6,402名 単体:118名

賛同・支持するイニシアティブ

- 国連グローバル・コンパクト
- 持続可能な開発目標 (SDGs)
- 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)
- 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD)



サッポロホールディングス株式会社

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

<https://www.sapporoholdings.jp/>

外部からの評価

ESG投資インデックスへの組み入れ



2025 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

当社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークおよびインデックス名の使用は、MSCIまたはその関連会社による当社のスポンサーシップ、保証、または宣伝ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関連会社の商標またはサービスマークです。

CDP「気候変動」「水セキュリティ」調査
最高評価の「Aリスト企業」に選定



「健康経営銘柄2025」に初認定



「健康経営優良法人2025」
大規模法人4社、中小規模法人4社 計8社認定※1
うち ホワイト500 連続認定3社
ブライト500 連続認定3社
ネクストブライト1000 初認定1社



女性活躍推進企業認定「えるぼし(2段階目)」取得※3



「がんアライ部」主催の
「がんアライアワード2024」で
7年連続「ゴールド賞」以上受賞※4



「プラチナくるみん」を8年間継続取得※2



「Nextなでしこ
共働き・子育て支援企業」に2年連続選定



※ 特記なしはサッポロホールディングスまたはグループで認定 ※1 サッポロホールディングス、サッポロビール、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(ホワイト500)、サッポロ不動産開発、サッポロフィールドマーケティング、サッポログループ物流(ブライト500)、ヤスマ(ネクストブライト1000)、サッポロライオン(健康経営優良法人認定) ※2 サッポロビール(ポッカサッポロフード&ビバレッジは「くるみん」取得) ※3 ポッカサッポロフード&ビバレッジ ※4 サッポロビール(ポッカサッポロフード&ビバレッジは6年連続シルバー受賞)